



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

前橋望景から詩が誕生

夜の臨江閣を望む離れ茶室で3月18日、三角みづ紀さんの詩の朗読とアーティスト・後藤朋美さんのインスタレーションを行いました。三角さんは萩原朔太郎賞の受賞者で、詩は冬に臨江閣を訪れた際の書き下ろし。来場者150人を独自の世界に引き込みました。



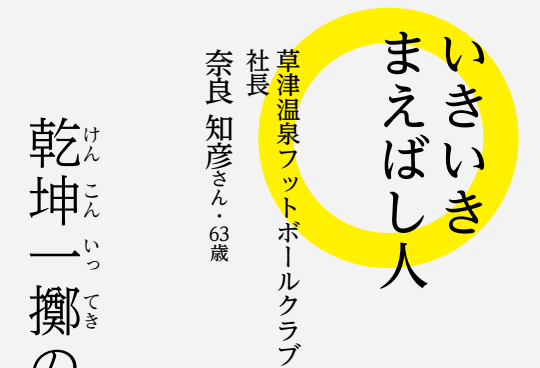
まちなかに映画館復活

3月17日、前橋プラザ元気21別館内3階に「前橋シネマハウス」がオープン。ミニシアター系の良作や、シネコンなどでの上映が終了したヒット作、家族で楽しめる作品、過去の名画などを上映予定です。文化とにぎわいの新たな拠点で、多彩な作品をお楽しみください。



課題解決を目指して

3月10日、まえばし市民提案型パートナーシップ事業の公開プレゼンテーションを開催しました。子どもの寝相アートで地域交流や見守り訪問など、課題解決のための提案を市の担当課と連携して発表。参加8団体のアイデアが光る提案が集まりました。



乾坤一擲の大勝負

「県民から愛され、信頼され、喜びも悲しみも一緒に共々できるクラブにならないといけない。つくるのは群馬のサッカー文化そのものです」昨年J3に降格。一年でのJ2復帰を目指すザスパクサツ群馬の再建を託された。「人生最後の大会です。年齢的には家族とゆっくり過ごしてもよかった。でも周りに奈良しかない」と頼まれて。自分はサッカーに育てられ、サッカーのおかげで成長できた。その恩を返す時が来た。決心して引き受けました。前橋商業高サッカー部監督としての実績、県内外に広がる「奈良先生のためなら」と

協力を惜しまない厚いサポート。その経験と人望が、クラブ再生の大きな力となる。「アマチュアスポーツは競い合ってお互いを高めるためにあるのだと思います。ただ、プロの世界には現実がある。お互い生活を懸けているわけですから、勝敗一つは天国と地獄の差です。必死な戦いに挑むからこそ、人間性が何より大切だと思っています」新監督に元市立船橋高の布啓一郎監督、強化育成アドバイザーに前橋育英高の山田耕介監督が就任。奈良社長が「絶対に逃げない男たち」と信頼を寄せる新体制で、群馬のサッカーの変革に挑んでいる。



「まずは前橋の皆さんに、この上州牛まえばしを知ってほしいです」と岡本さん。

「赤城の恵ブランドに認証されたのをきっかけに、前橋の皆さんにもっと牛肉を食べてほしいですね」と岡本さん。口溶けがよく柔らかい上州牛まえばしを、ぜひ皆さんの食卓に並べてください。

上州牛のうち、牛の脂肪に含まれるオレイン酸の割合が45%以上で肉質等級などの基準を満たした物を「上州牛まえばし」に認定。JA前橋市肉牛肥育部会会員の畜産農家が育てています。「私のところでは、子牛から約2年間育てて出荷してい

ます。牛たちは言葉を話せないから、よく観察して細かい変化を見落とさないよう、毎日世話をしています」と農家の岡本壮一さん。認定基準を満たせない牛は全体で3割ほどいるそう。厳しい基準を満たせるよう、農家は愛情を込めて育てています。

赤城の恵ブランド 上州牛まえばし 最終回

図まえばし畜産物ブランド推進協議会
☎027-280-2333

